

# CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 12 No.9 2010年5月15日号

編集:[editor@cnar.jp](mailto:editor@cnar.jp) 広告:[pr@cnar.jp](mailto:pr@cnar.jp) 読者登録:<http://cnar.jp>

Copyright 2010 CNA Report Japan. All rights reserved.

## 製品・サービス動向-国内

### ポリコムジャパン、春の新製品発表会開催：ビデオ会議システムの新製品や機能強化を発表

ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、4月22日都内にて春の新製品発表会を開催。新製品や機能強化などを発表した。

ポリコムとしては、ユーザがより低コストの会議ソリューションを導入することで迅速なROIを実現すること、会議システムの機能や性能を向上させることでユーザの使用感や使い勝手を高めること、さらに、POCN (Polycom Open Collaboration Network) パートナー(マイクロソフト、IBM、BroadSoft、Juniper Networks、シーメンス、アバイア、ヒューレットパッカー)との協業によってユニファイドコミュニケーションなどを軸に、ポリコムソリューションをさらに強化していく考えで、今回発表された内容はその一環となる。

今回発表された新製品や機能強化は以下の通り。第2四半期や下半期にリリースされる予定。

#### (1) H.264 ハイプロファイル技術を発表

H.264 ハイプロファイルは、ビデオ会議を行う上で必要な帯域幅を最大50%削減させるコーデック技術。ポリコムが業界で初めて対応したという。このコーデックを使用することで、512kbps以上で720p30 HD、1Mbps以上で1080p30 HD、そして128kbps以上あればDVD品質を実現する。従来の技術では、720p30 HDには一般的には最低1Mbpsの帯域、また1080p30 HDは、数Mbpsの帯域が必要だった。

ユーザにとっては、より少ない帯域で高品質なビデオ会議が行えるため、帯域の有効利用や運用費用の削減が可能になるという。また、帯域の制限のためHDビデオ会議の展開が難しかったユーザにとっても、H.264 HPによってそれが可能になるとポリコムでは期待している。

| 解像度 / フレームレート | 現在、業界で標準的に採用されている H.264 スタンダード プロファイルの帯域幅 | ポリコムの H.264 ハイプロファイルの帯域幅 |
|---------------|---|--------------------------|
| 4CIF30        | 256 kbps                                  | 128 kbps                 |
| 4CIF60        | 1024 kbps                                 | 512 kbps                 |
| 720p30        | 1024 kbps                                 | 512 kbps                 |
| 720p60        | 1512 kbps                                 | 832 kbps                 |
| 1080p30       | 2048 kbps                                 | 1024 kbps                |

H.264 SP と H.264 HP との帯域比較 (ポリコムジャパン資料) \*H.264 SP・H.264 Standard Profile. \*H.264 HP・H.264 High Profile.

#### (2) HDX シリーズ全製品(HDX 2.6)がフル HD と H.264 ハイプロファイルに対応、また基本パッケージの機能

HDX シリーズの会議室用ビデオ会議製品のラインナップ(「HDX 6000」/「HDX 7000」/「HDX 8000」/「HDX 9000」)全てが、フルHD 1080p と、HD 720p60 に対応するとともに、H.264 ハイプロファイルにも対応する。さらに「People+Content」がHDのフルフレームに対応。

ただし、HDX 6000のフルHDについては、受信のみ対応で別売りのライセンスキーが必要となる。

HDX シリーズの一部の古いハードウェアバージョンでは、1080p および H.264 ハイプロファイルに非対応となっている。加えて、「HDX 4000」シリーズは個人用システムであるため、今回の変更の対象外という。

なお、HDX シリーズにおいて、別売りのオプションで提供していたコンテンツ共有、ビデオソースの追加、複数モニターへの出力するための映像入出力追加、ラインレートアップグレードなどの機能については、基本パッケージに含める。内蔵MCU機能は引き続き別売オプションにて提供。

|                        | HDX 6000         | HDX 7000                   | HDX 8000                   | HDX 9000                              |
|------------------------|------------------|----------------------------|----------------------------|---------------------------------------|
| 入力                     | 2 (HDCI×1、DVI×1) | 3 (HDCI×1、S-Video×1、DVI×1) | 4 (HDCI×2、S-Video×1、DVI×1) | 4 (HDCIまたはBNC×1、HDCI×1、YPbPr×1、DVI×1) |
| 出力                     | 1 (HDMI)         | 3 (DVI×2、S-Video×1、)       | 3 (DVI×2、S-Video×1)        | 3 (DVI×2、コンポジット×1)                    |
| 720p60                 | オプション受信のみ        |                            |                            |                                       |
| 1080p30                | オプション受信のみ        | (1080モデル)                  | (1080モデル)                  | (1080モデル)                             |
| 最大帯域幅                  | 2M               | ポイントtoポイント:2M<br>多地点通話:4M  | 6M                         | 6M                                    |
| People+Content & PPCIP |                  |                            |                            |                                       |
| People On Content      |                  |                            |                            |                                       |
| 多地点通話 (オプション)          |                  | 4拠点間SD                     | 4拠点間HD                     | 4拠点間HD                                |
| APIのサポート               |                  |                            |                            |                                       |
| アナログ (一般電話回線)          |                  |                            |                            |                                       |

メラとしての使用に適している。逆さまにして設置することも可能で、ビデオ会議に接続する音声用と映像用のケーブルは1本で済むため設置も容易という。

4月21日から販売開始。価格はオープン。

#### (4)「HDX EagleEye View メディアセンター」

HDX 6000とEagleEye Viewカメラそして42インチ HD 対応の液晶モニター(卓上スタンド

付き)を統合したオールインワンパッケージ。内蔵サブウーファーによる60ワットのサウンドシステムを搭載。マイクは、EagleEye Viewカメラ内蔵のマイクを使用するため、設置が簡単。

4月21日から販売開始。価格はオープン。

#### (5) インターフェイスデバイス「Polycom Touch Control(ポリコムタッチコントロール)」



#### Polycom Touch Control(ポリコムジャパン資料)

Polycom Touch Control は、Android を搭載した、HDX システム用のタッチスクリーンデバイス。ネットワーク経由で任意の HDX シリーズの制御を行うことができるとともに、Polycom Touch Control は、Polycom CMA で一元管理が行える。

Polycom Touch Control は、7 インチの画面を指操作 (iPhone みたいな操作) することで、通話の発信やカメラのパンチルトズーム、音声のボリューム調整、コンテンツの共

#### HDX 6000/7000/8000/9000 比較表 (ポリコムジャパン資料)

その他、マイクロソフトのユニファイドコミュニケーション環境(「Microsoft Office Communications Server 2007」)へゲートウェイ等を介さずにネイティブに統合できる機能が新たに追加された。ポリコムは、Polycom Open Collaboration Network 戦略(パートナーとの関係強化のための戦略)に基づき、ユニファイドコミュニケーション環境を標準的にサポートする。

4月21日から受注開始。価格はオープン。

#### (3)「Polycom EagleEye View カメラ」



#### Polycom EagleEye View カメラ(ポリコムジャパン資料)

Polycom EagleEye Viewカメラは、小・中規模の会議室用に設計されたステレオマイク内蔵の1080pフルHD対応カメラ。HDX全製品に対応する。10メガピクセルCMOSカメラ内蔵4倍デジタルズーム。外付けのマイクを使用すると内蔵マイクをオフにすることもできるため使用目的にあわせてマイクを使い分けることもできる。またコスト効率が高く、セカンドカ

有などの制御が簡単に行える。

さらに、共有アドレスブック、画面上のキーパッド、カレンダー機能を使用して簡単に会議に接続したり、Microsoft Exchange サーバと連動させることで会議室の詳細情報を参照したりすることもできる。その他、USB ポートを内蔵し、フラッシュドライブから Microsoft Office ファイルを直接自動的に読み込むことなどが行える。電源は、PoE (Power Over Ethernet) により本体へ供給する。

ビデオ会議は長年リモコンが主流であったが、会議の品質や利便性をさらに高める目的でこの新しい製品を発表した。今後は、将来のソフトウェアリリースにおいて、「Polycom RSS 2000」および「Polycom RSS 4000」会議レコーディングソリューションや「Polycom SoundStructure」設置型音声会議ソリューションの操作も行えるようになる予定。

販売開始は、2010 年第 4 四半期予定。

#### ( 6 ) 「Polycom CMA ( Converged Management Application )」のバージョン 5.0

Polycom CMA は、国際標準に準拠した他社製を含めたビデオ会議システムやビデオ会議インフラを一元的に管理、プロビジョニングできるプラットフォーム。2008 年 10 月に発売。

今回の新しいバージョンによって、いくつかの機能を強化した。ビデオネットワークの管理と柔軟性の向上や、会議モニタリング機能の強化、また、ポリコムソリューションの管理サポートの充実、さらに、使用状況の確認、ROI の測定、課金ができるレポートツールの強化などを行った。

管理サポートの充実においては、HDX 6000、HDX 6000 View、「Polycom QDX 6000」の管理とプロビジョニングが可能になった。

レポートツールの強化においては、複数の部署、代理店、キャンパスなどで共有しているリソースの課金計算も行えるようになった。

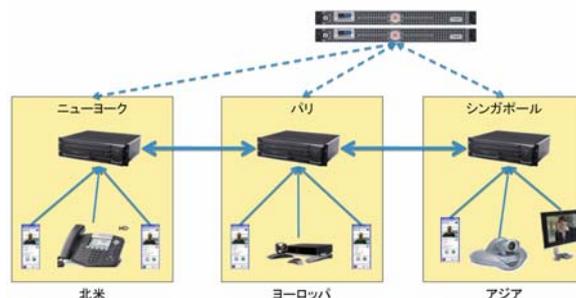
さらに、バージョン 5.0 によって、CMA Desktop が MacOS に対応するとともに、デスクトップ PC 環境から HD 品質の映

像の受信に加えて送信も可能になった。その他、Windows 7 への対応や音声符号化方式 G.719 をサポートし、複数の USB カメラから選択も可能になった。

出荷開始は、4 月末より予定。ポリコム保守契約期間中のユーザは無償で提供。

#### ( 7 ) 「Polycom DMA(Polycom Distributed Media Application) 7000」のバージョン 2.0

DMA は、複数の多地点接続サーバ「Polycom RMX」(バージョン 6.0)を仮想化することで効率的な管理と負荷分散を行うシステム。2008 年 10 月に発売。



#### DMA のインテリジェントルーティング(ポリコムジャパン資料)

今回発表されたバージョン 2.0 では、通話をインテリジェントにルーティングすることで品質とネットワーク効率を向上させたり、停電などの障害発生時でも会議通話を自動的に移動したりすることで信頼性を向上させるなどの機能強化を行った。また、H.323 に加えて SIP をサポートすることで、SIP が標準的に利用されるユニファイドコミュニケーションとの機能統合や相互運用性を高めた。

出荷開始は、4 月末より予定。ポリコム保守契約期間中のユーザは無償で提供。

#### ( 8 ) 「Polycom RSS 」バージョン 6.0

Polycom RSS は会議の録画機能を提供するシステム。今回発表されたバージョン 6.0 では、Linux OS のサポート、バーチャルレコーディングルーム、カレンダー機能、複数

のビットレート(たとえば、2Mbps とか 512kbps を混在して配信。)でのストリーミング、セキュリティ(JITC 認定)、MPEG-4 形式でのエンコードなどをサポートした。またユーザインターフェイスは、CMA に合わせたものとなっている。

### (9) その他

発表会では、その他、「Microsoft Exchange Server」との統合により Microsoft Outlook で音声・ビデオ会議を予約することができる機能である「Polycom Conferencing for Outlook」や、XML ベースの API に対応しアプリケーション開発も行える「デュアルスタック ビジネス メディア フォン VVX 1500 D」の紹介もあった。アプリケーション開発によってカレンダーや株価情報など自由なアプリを VVX 1500 D の画面で表示させることができる。

### SOBA プロジェクト、インターネット個別指導システムを開発

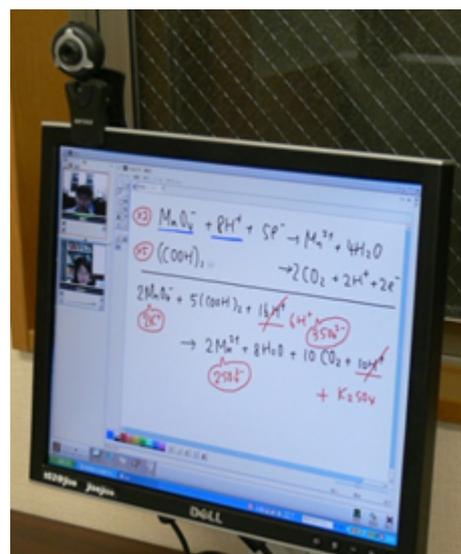
株式会社 SOBA プロジェクト(京都市下京区)は、インターネット個別指導システム「SOBA スクール」を4月12日より販売開始。



SOBA スクール  
授業の様子  
(SOBA プロ  
ジェクト資料)

SOBA スクールは、教師が生徒に対して顔や資料を共有しながら遠隔で学習などの個別指導が行えるシステム。学習塾や専門学校などの教育産業向けに開発されたものだが、一般企業の社内研修にも活用できると社では説明する。

SOBA スクールには、映像と音声のテレビ会議機能の他、効率的な学習指導を促進するスキャナ機能や理解度ボタン、



SOBA スク  
ール授業の様  
子(SOBA プロ  
ジェクト資料)  
モニタリング機  
能なども提供  
する。

スキャナ機  
能は、テキスト  
や問題集を画  
面で共有する

ことができ、理解度ボタンは、生徒の理解度を段階で表示することができる。一方、モニタリング機能は、授業の様子を塾長などがモニタリングするための機能になる。このモニタリング機能は、教師や生徒には見えない仕組みになっている。

販売価格は、月額1,050円(税込)/1ユーザ。たとえば、講師1人と生徒2人の場合は、3ユーザとなる。ソフトウェアのみで、周辺機器は別途販売。

今回開発、販売に至った理由。小中学校向けの学習塾は、従来、集団指導が中心だったが、最近の生徒個人のレベルに合わせる個別指導が全国的に主流になってきた。また社会人や学生を対象とした専門学校や各種学校においても個別指導の導入が進んでおり、テレビ会議を使った個別指導が注目され始めている。

そのため、同社は、学校法人八洲学園などと共同で、このSOBA スクールの販売等を行う株式会社 SOBA エデュケーション(東京都新宿区)を設立した。幅広く教育産業に向けて販売していく考えだ。販売目標は、初年度約200校を目指す。

(次ページに続く)

## ポリコムジャパン、カスタマイズ可能なテレプレゼンスソリューションを発表

ポリコムジャパン株式会社は、カスタマイズ可能なイメージング テレプレゼンス ソリューションの新製品「Polycom ATX 300(Polycom Architected Telepresence Experience)」を4月15日に発表した。



### Polycom ATX 300 (ポリコムジャパン資料)

Polycom ATX 300 は、ビデオ会議のコンポーネントとソフトウェアで構成するテレプレゼンス用キット。

ポリコムが認定した AV インテグレーションパートナーが顧客のニーズに応じて、ディスプレイ、家具、照明、音響、装飾など含めてカスタマイズし、テレプレゼンス環境を設計・構築し、実装サービスまで提供する。また固有の室内要件にシステムを適用させることも可能で、その場合既存の家具やコンポーネントを利用することでコストをより抑えて導入することも可能になっている。

システムは、国際標準規格に準拠しているため、既存のビデオ会議システムとの接続も可能だ。さらに、人物映像はもちろん高解像度でコンテンツの共有もできる。

導入例として。医療現場では、テレプレゼンスを通じて執刀中の手術を外科医が見学できる双方向の手術室などの医療研修スタジオの構築の他、教育現場では、Polycom ATX 300 を、「Polycom SoundStructure」、シーリングマイク、書画カメラ、AV システムなどの据付タイプの室内オーディオ設備などととも講堂や教室(キャンパス間接続)に設置する方法もあるとポリコムジャパンは説明する。

Polycom ATX 300 ソリューションは、2010 年 4 月より、株式会社映像システム(東京都文京区)をはじめとする Polycom

ATX 認定販売代理店を通じて販売される。

## ニューロネットの SaaSBoard、100 名まで同時参加に対応

ニューロネット株式会社(東京都渋谷区)は、SaaS 型 Web 会議/テレビ会議/Web コラボレーション「SaaSBoard バージョン 2.3」を発表した。(4月9日)

SaaSBoard では、3 名までが同時会議できる無料版、6 名まで同時会議ができる個人ユーザ向け月額固定 980 円有料版、また 9 名まで同時会議できるビジネスユーザ向けの月額固定 2,980 円有料版などを提供しているが、今回の SaaSBoard バージョン 2.3 では、新たに、特にビジネスユーザ向けに 100 名まで同時参加できるオプション機能を付加したエンタープライズ 100 を提供開始した。

SaaSBoard は、映像音声会議、画面共有、Web ホワイトボードなどの機能を持つ。Web ホワイトボード機能は、PC 内の各種ファイルに加え、写真や動画、音声などを貼付け、手書き文字の表示、HTML/XML の展開が可能。作成されたファイルは、SaaSBoard が提供するソーシャルネットワークサービス上に保存され、検索機能も提供される。

また SaaSBoard は、ID 型のため、会議室型のように予約をせずに利用者間同士でその都度会議を開ける。そのため、本社と支社間など企業内で利用するものが多い一般的な Web 会議システムとは違い、SaaSBoard は、社内、取引先、海外、個人契約者間など企業の枠を超えて利用できるのが特長という。

ニューロネットでは、企業は個人など業務内利用をメインに提案していくが、ブライダル関連の付加価値サービス(披露宴の配信など)としても提案していく。さらに、Web セミナーを教育・イベント業界と提携して販売したりする他、SaaSBoard システムをグループウェアやワークフローシステムとの連携も行っていく考えだ。

(次ページに続く)

## 事業動向-海外

### ライフサイズ社、アルカテル - ルーセント社のコミュニケーションプラットフォーム向けにHDビデオ会議を統合

スイス Logitech 社の事業部である、米ライフサイズ・コミュニケーションズ社は、アルカテルルーセント社と提携し、ライフサイズ社のHDビデオ会議システムをアルカテルルーセント社のコミュニケーションプラットフォームに統合すると発表。(4月13日)

ライフサイズのHDシステムとアルカテルのプラットフォームに統合することで、今回提供する最初のソリューションとしては、アルカテルルーセント社の通信環境において、ライフサイズ社のHDビデオおよび音声の通話が行えるとともに、ライフサイズのHDシステムとアルカテルルーセントの「OmniTouch 8660 My Teamwork Unified Conferencing & Collaboration」が相互にシームレスに通話が行えるようになる。また、4桁ダイヤリングやコール処理などの拡張機能も提供される。

ライフサイズ社は、「Alcatel-Lucent Alliance and Application Partner Program(以下AAPP)」のメンバーとして両社で共同マーケティングおよび販売を行っていく予定。

## 海外セミナーレポート



### The TeleSpan's Fifth Annual Future of Conferencing Workshop

主催: TeleSpan Publishing Corporation

開催日: 3月18日-19日 会場: ラスベガス

このセミナーのオリジナル版の英語によるレポートは、Electronic TeleSpan, March 23, 2010, Volume 30, Number 11 と March 29, 2010, Volume 30, Number 12 に掲載。英語版は10ページに及ぶため、その一部についてCNAレポート・ジャパン 橋本啓介がポイントをまとめた。

1981年以來遠隔会議システムのマーケットリサーチとコンサルティング事業を提供してきた米 TeleSpan Publishing Corporation 社は、3月18日と19日の2日間ラスベガスにおいて、遠隔会議の動向と今後の展開というテーマにフォーカスした、第5回目のワークショップセミナーを開催した。

来場者は、予定として100名を募集していたが、予想以上の120名が会場に参加した。そのうち、米国以外の国からでは、アイルランド、ドイツ、スウェーデン、ブラジル、インドなどからの参加者が出席した。また会場の様子をストリーミングでもリアルタイム配信も行った。参加者は、経営管理者(CEOなどCレベル)級の参加者が8割だったという。

今回のワークショップで取り上げられたトピックスは、遠隔会議システム市場の動向、モバイル、ソーシャルネットワークワーキングサービス(SNS)、Skype、さらには、遠隔会議サービス提供事業者(CSP)の今後の展開などについて講演やパネルディスカッションが行われた。

### 市場動向 (State of the industry) -Elliot M. Gold

Gold氏は、市場動向について講演し、テレビ会議、Web会議、電話会議を含む遠隔会議市場は堅実に市場拡大をしており、電話会議が半数を占めるなか、もっとも高い伸びを示しているのは、Web会議だという。

TeleSpanの市場統計によると、2009年の遠隔会議市場(売上ベース)は、前年より6.5%増加し、62億9000万ドルを記録したという。この6.5%の伸びは、2007年から2008年の伸びである13.1%には及ばなかったが、昨今の世界的な景気の低迷にもかかわらず、6.5%を達成したことは決して悪い結果ではないという見解を示した。

その中で最大のセグメントは、一般電話回線を使った電話会議。電話会議は、遠隔会議全体の中で50%を占め、テレビ会議は、約20%を占める。一方、成長の伸びという視点から見ると、Web会議が前年から25%増加している。

その他、音声会議市場の、売上状況やサービス提供時間分(call minutes、サービス提供事業者がユーザに電話会議サービスを提供した総累計分)、1分当たりのサービス料金状況、無料の電話会議サービスなどの報告もあった。無料の電話会議サービスは、無視出来ないくらいに、市場で大きなプレゼンスを占めてきているという。

(橋本補足:北米では、電話会議がコモディティ化しており、サービス提供事業者も日本に比べ非常に多いと言われている。そのため競争が激しく、1分当たり数セント、あるいは無料などの事業者も展開している。)

一方で、テレビ会議については、2004 年以来、SD タイプ、HD タイプ、テレプレゼンスシステムと顕著な成長をしているという。今後は、シスコなどのコンシューマー向けのテレプレゼンスシステムや Skype がどう影響してくるかが市場トレンドをワッチする上でポイントになるであろうとの見方を示す。

### インターネットの広がりと業界への影響(The Threat of Web Ubiquity) - Richard Dalton

Dalton 氏は、長年 Electronic TeleSpan ニュースレターにコントリビューティングエディタとして活躍しており、今回の講演では、遠隔会議に影響をあたえるインターネットや Web のアプリケーションや製品にはどういったものがあるのかを考察した。

今後遠隔会議に影響を与えると思われるものに、モバイル端末をまず挙げる。同氏は、アップルが iPhone を 5000 万台販売し、30 億の iPhone 用アプリがダウンロードされた点を指摘。

それに加え、講演の中で同氏は、ITU の統計を引用しながら、携帯電話の加入(人口 100 人に対して 67 人)は、インターネットの加入者数(人口 100 人に対して 25.9 人)よりも多いとも指摘する。さらに、携帯電話での SMS(テキストメッセージ)サービスの利用の増大は、音声サービスを凌駕しつつある。

同氏は、これらを考え合わせると、モバイル端末の今後の動向は遠隔会議へ少なからず影響を与えるものと見てよいのではないかと考える。

一方で、ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)もその動向は見逃せないという。たとえば、Facebook は、1 日当たり 1 億 7500 万のビジターがあり、今後 SNS の利用ユーザはますます増えていくと一般的に言われている。そういった中で、SNS と連携していくところに、明日の遠隔会議の成長の場があるのではないかと。(以下の講演者でも SNS についての言及がある。)

(次ページに続く)



## ユーザ主体の SNS グループの必要性 ( Vendor-Neutral Social Network for Your Customers )-Judy Sterling( keypointmarketing 社 ) Regina Menza、James DiMarino ( Genzyme 社 )

Sterling 氏と Menza 氏によると、ソーシャルネットワーキングサービスのひとつである LinkedIn では、ユニファイドコミュニケーションや遠隔会議をテーマとした115のグループがすでに立ち上がっているそうだ。それらの総参加者数は、12,000人以上登録しており、毎週250人の新しい参加者が新たに参加しているという。ただ、今後ユーザ主体のグループ(vendor-neutral)も増えたほうがよいと考えている。

なぜなら、ベンダー主体のグループでは、セールスプロモーション的な投稿が多くなり、中立的な情報交換や意見交換などが難しいからだと指摘する。そこで現在、Sterling 氏と Menza 氏はユーザ主体のグループの設立を実現するための活動を展開している。

一方で、DiMarino 氏は、個人的な見解と断りながら、企業でソーシャルネットワーキングサービスを活用する上で課題があると指摘。ビジネスでの活用もよく見られるようにはなったが、まだまだビジネスとして有効なツールになりきれておらず、個人的な利用の範ちゅうに止まっているのではないかと指摘する。しかし、他の人とコネクしていく場所が必要なので、今後遠隔会議とソーシャルネットワーキングサービスをクロスオーバーさせることが良いのではないかとの見解も示す。

DiMario 氏の勤務する Genzyme 社は、医薬品メーカーで世界 85 カ国に展開する。社内での電話会議の利用は、北米だけでも月に 220 万分の利用があり、また Web 会議利用は、2002 年に 10,500 分/月だったのが、2009 年には 170 万分/月に増えた。同社では、テレビ会議システムだと会議室での利用に限られるため、自宅や空港など会社の外でも活用できる Web 会議の利用が 2002 年以降 4 倍 (quadrupled) に増えたという。

同氏は、遠隔会議の将来は、ユニファイドコミュニケーションを通じた音声と Web の統合にあるのではないかと予想する。

## マーケティングツールとしてのソーシャルネットワーキングサービスの可能性 ( Social Networking ) -Dave Nelsen(TalkShoe)

Nelsen 氏の会社 TalkShoe 社では、コンシューマーコミュニティ電話会議サービスを提供している。同氏の会社では、ソーシャルネットワーキングサービスをビジネスの拡大に如何に活用できるか、これまで 3-4 年ほどパートナーや顧客と一緒に検討してきた。

なぜならソーシャルネットワーキングサービスを通じた情報伝達あるいはニュースの伝達は、従来の方法に比べそのスピードが非常に速い場合があるのではないかと見ている。

この利点を、電話会議などと組み合わせて、有効なマーケティングツールとして活用できないかと同氏は試行錯誤している。顧客の獲得や維持において、今後セールスやマーケティングに加え、有効なツールではないかと考えるからだ。その一例として、T-Mobile Liverpool Station Dance Video の例を挙げる。これはロンドンのリバプールにある地下鉄の駅にあるカメラの前で 250 人のダンサーがなんの予告もなく踊り出すという Youtube に投稿されているビデオクリップ。この Dance Video はもともと視聴されたビデオクリップのひとつで、このビデオクリップの存在を迅速に知らせたのは、ソーシャルネットワーキングサービスによる情報伝達だったという。

## 電話会議で中国が米国を越える ( Selling Conferencing Internationally ) -Harry Walls

Walls 氏は、過去数十年にわたり、電話会議サービスを世界中に販売してきた経験を持つ。最近の傾向をみると、今後アジア太平洋、とりわけ中国が、今まで世界市場で最大の市場であった米国にかわり、より重要な市場になるだろうと見る。同氏は、それが起こるのは、2013 年だろうと予想する。

## コラボレーションの可能性はモビリティにある ( Cisco Leading Business to the Next Wave of Collaboration ) -Rick McConnell(Cisco)

シスコシステムズ ユニファイドコミュニケーションビジネスユニットのバイスプレジデント/ジェネラルマネージャの McConnell 氏は、今後のコラボレーションの可能性を考えた時にやはりモビリティがキーになるのではないかと考えている。

その理由のひとつとして、モビリティによっていつでもどこでも仕事ができるようになる点を挙げる。たとえば、同氏の経験から、従来では朝 8 時から働いて夜 7 時に帰宅し、そこからようやくパーソナルライフが始まるという生活パターンだったが、コラボレーションがモバイルデバイスで行えるようになって、午後 3 時に、子供のサッカーやダンスの練習をちよつと手伝ったりすることもできるようになった。その技術でどこでも働くことができるようになったからだという。

次に、やはり、モビリティ環境が普及した場合、プレゼンスが重要になってくるという点を述べた。SMS(ショートメッセージングサービス)の利用は年々増大している。より頻繁にメッセージの交換を行うというのは、ひとつは、相手が今そこにいるのかを知りたいからではないかと同氏は見ている。そのため、SMS メッセージに、プレゼンス機能を提供するものひとつの可能性かもしれないという。

同氏が引用した米のベライゾン社のデータによると、2002 年の SMS メッセージの年間発信数は、10 億通だったが、2004 年には、1 ヶ月でその 10 億通を達成し、2008 年には、1 日で達成し、年々 SMS の利用数は速いペースで増加している。

テレプレゼンスと出張の関係。シスコ社内では、出張をしたい場合は、エグゼクティブバイスプレジデントの許可が必要になるという。現在社内では、テレプレゼンスや WebEx などを使用して 1 ヶ月あたり 4000 万から 5000 万分のコラボレーションツールによる会議が行われており、これにより、コラボレーションツールによって 1 年間で 3 億 5000 万ドルの出張

費の削減が行えた。また、McConnell 氏は、個人的にも出張を極力控えることができ、外国の人達とのテレプレゼンスミーティングでもその後帰宅して、自宅で夕食を食べることができて満足しているという。しかし、これらの効果を実現するためには、会社の方針や、業務プロセスまたは組織文化を変えていくことがまず必要だろうと McConnell 氏。

## テレプレゼンスとグリーンアジェンダ ( TelePresence and the Green Agenda ) Panel-Martin Elton(NYU), Rick McConnell(Cisco), Damon Frost(P&G), Jicky Ferrer(PACOM)

P&G 社では、遠隔会議システムをフル活用しているヘビーユーザで、年間にして自動車 1,600 台分の CO2 の削減を実現しているという。P&G 社の Frost 氏によると、同社には、60 台の Cisco TelePresence システムが稼働している。90 日間システムを 4 台借りてトライアルを行いその後本格導入したようだ。もともと従来型(SD タイプ)のテレビ会議システムもあったが、今はテレプレゼンスシステムの利用が多くなったという。一方 PACOM では、利活用をすすめる上で、テントにテレビ会議を設置するなどの使い方もしたと同社の Ferrer 氏は言う。

Frost 氏の話を受けて、シスコでも従来型のテレビ会議よりも、もちろんテレプレゼンスシステムの利用が非常に多いと McConnell 氏は言う。McConnell 氏のテレプレゼンスシステムの活用の経験からすると、出張回数が以前に比べ 40%減らすことができたが、逆に顧客とのコミュニケーションが 40%増えたそうだ。

しかし、遠隔会議を導入し出張を減らすことはなかなか難しい面がある。システムを社内で使用するにあたって、社内においてコストメリットなどの理解や利用に対するコンセンサスを得なければ導入にも至らない。

やはり、導入し効果まで得ることができた最大の要因は、トップの考えなど社内における方針(policy change)を変え

ることができたからというのが大きいと McConnell 氏とニューヨーク州立大学の Elton 氏は指摘する。(Elton 氏は、Electronic TeleSpan ニュースレターでも長年執筆してきた。)しかし以前よりは、社内での理解は得やすくなったのではないかと McConnell 氏は言う。テレビ会議製品は、コスト、品質、使い勝手の全ての面において以前よりも良くなってきているからだ。

### スカイプ : Skype: At the Intersection of Consumer and Business Videoconferencing ・ Jonathan Christensen ( Skype )

Skype 社のジェネラルマネージャ Christensen 氏は、Skype Video を通して遠隔からビデオ講演。Christensen 氏は、Skype による音声通話の伸びと Skype を使ったビデオチャット通話について講演した。

国と国との間をまたぐ音声通話に占める Skype が伸びているという。2008 年には Skype 通話が 8%だったが、2009 年には、12%まで増加したという。Skype の通話機能を使ってコミュニケーションをする人が増えてきている。また Skype を使った通話の中でビデオチャットが占める割合は、34%だという。

Christensen 氏は、この 30 分間の講演の間でも、世界では、10 万時間の Skype から Skype への通話が、また 3 万 3,000 時間の Skype ビデオチャット、1 万 2000 時間の固定通話もしくは携帯電話への通話が行われているという。これは非常に大きな数字であるといえる。それだけ Skype が幅広いユーザに浸透してきていることがこれらの数字からでもわかる。

また中国と北米のユーザを比較した興味深い統計も示し、ビデオチャットについては、北米のユーザの方がより使う傾向があるようだ。インスタントメッセージングについては、中国のユーザが 5 倍以上使っているようだ。今後中国での動向に目が離せないのは間違いなさそうだ。

### 多地点接続サービス事業者の今後の展開 : How do CSPs Get Future Revenues - Bob Wise(Intercall)、Deb Volansky ( Connexintl )、Peter Stewart(PGi)、Roger Rosenquist ( conferenceplus )、 Bill Haskins(global Crossing) 、 Jerry Pompa(Compunetix)

このセッションでは、多地点接続サービス提供事業者 (CSP) の今後の展開についてのテーマでパネルディスカッションが行われた。パネリストは、世界市場で代表的な大手サービス提供事業者と、多地点接続装置を開発する Compunetix 社がパネリストとして登壇した。

北米での多地点接続サービス事業が提供しているサービスの中で、電話会議がまだまだ過半数を占めるとともに、サービス利用分ベースでユーザの利用も増えている。しかし、競争の関係からサービス利用料金が下がっていることもあり、売上の伸びが影響される可能性がある。

そういった中でも売上を拡大させていくために、Volansky 氏の会社では、サービスの顧客定着 ("stickiness" of the service) を増すために、請求書の内訳明細内容を含めた豊富なカスタマイズに対応することで、サービス料金の価格の低下を最小限に抑えることができているという。

一方で、Stewart 氏は、従量課金的なチャージから、月額固定などの料金体系にする方法を採用することで、サービス料金の低下を防げるのではないかとコメント。

また、Rosenquist 氏は、HD テレビ会議サービスや、Web 会議サービスの充実化などで売上向上に結びつけることも可能ではないかと付け加える。Haskins 氏もテレビ会議サービスの拡充などの方法があるのではないかと同調する。

一方、Pompa 氏の会社では、多地点接続装置に搭載する新しい機能の開発を行っているという。コールアラートや通知機能などの他、多地点接続事業者の収益に貢献できる機能の開発を行っているとした。

## 来年の開催について

来年 2011 年の Workshop は、3 月 17 日-18 日に同場所にて開催予定。

## 2010 年ワークショップスポンサー



TeleSpan Publishing Corporation

<http://www.telespan.com>

## 2010 年ワークショップ セミナーサイト

<http://www.telespan.com/workshop/>

(セミナーレポート終わり)

## セミナー・展示会情報

### <国内>

ヴォルフビジョン新製品発表・ソリューションフェア in 名古屋

日時:2010年5月19日(水)、20日(木)

会場:愛知県産業労働センター「ウインクあいち」(名古屋市)

主催:株式会社ヴォルフビジョン

詳細・申込:<http://www.wolfvision.com/japan/exhibitions.html>

\*パイオニアソリューションズ株式会社、パナソニック株式会社、ポリコムジャパン株式会社、三菱電機システムサービス株式会社(日本タンバーク株式会社)などのテレビ会議メーカーも出展。

### SaaSBaord無料セミナー

厳冬の経済状況に一筋の光明

ワークスタイル革新で 劇的経費削減と推進力増強

日時:5月21日(金)13:30~17:00(13:00開場)

会場:渋谷区商工会館 2Fセミナー室

(東京都渋谷区渋谷1-12-5)

主催:ニューロネット株式会社

コンサルテイメント、ライド株式会社

詳細・申込:

<http://www.neuronet.co.jp/seminar/mailform100521.html>

## RADVISION テクノロジ・ソリューション・セミナー2010

日時:5月25日(火) 13:00-16:40(受付:12:00~)

会場:新宿京王プラザホテル(東京都新宿区)

主催:RADVISION Japan株式会社

詳細・申込:<http://www.radvision.jp/t-seminar/>

\*本社マーケティング責任者、開発責任者などの講演、TBU製品やVC240デモのなども予定。

コスト削減、業務効率化、パンデミック対策にも有効  
早分かり! Web会議導入の秘訣&事例セミナー  
ASP型Web会議システム国内シェアNo.1のブイキューブがWeb会議システムの選び方のポイントや活用事例を紹介

日時:5月25日(火) 14:30~16:45(受付開始 14:15~)

会場:JDB銀座ビル 5F コンファレンス銀座

主催:株式会社ブイキューブ

メディア協力:ソフトバンク ビジネス+IT

詳細・申込:

<http://www.sbbt.jp/eventinfo/10532?ref=1004517ev>

## テリロジー・VTV ジャパン共同セミナー開催 「ワークスタイル変革!!」Vidyo Conferencing ソリューション セミナー

東京2会場 大阪会場をつないで3次元中継

日時:5月26日(水)15:00~18:00(受付開始:14:30)

会場:東京会場:第1会場:株式会社テリロジー 第一会議室

第2会場:VTV ジャパン株式会社 東京本社 デモルーム

大阪会場:VTV ジャパン株式会社 大阪オフィス デモルーム

主催:株式会社テリロジー、VTV ジャパン株式会社

詳細・申込:

<http://www.vtv.co.jp/seminar/1005sterility/index.html>

## WebEx を使おう! 基礎の基礎!

~ まずはここから Web会議のはじめの一歩 ~

日時:5月27日 14:00-15:00

会場:Web セミナー

主催:シスコシステムズ合同会社

コラボレーション ソフトウェア グループ

詳細・申込:

[http://www.webex.co.jp/jp/web-seminars/webseminar\\_052710.html?SourceId=hpg](http://www.webex.co.jp/jp/web-seminars/webseminar_052710.html?SourceId=hpg)

## 編集後記

今回も読み頂きまして有り難うございました。

次回も宜しくお願いします。

(橋本啓介)